

# ODA

## 沖縄脊髄損傷者連合会

# しゃりん

# 68

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211  
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室  
Eメールアドレス [sekiren@proof.ocn.ne.jp](mailto:sekiren@proof.ocn.ne.jp)  
ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

### 第三十回九州ブロック

### 会議大分県大会

#### スローガン

○障がい者に優しい町作り、社会作り、人作りを進めよう

○10年後20年後を見据えた発展への再出発をしよう

去る十一月十日〜十一日に、九州ブロック大会に参加しました。基調報告では、この5年間で、これまでの最低生活水準である社会保障制度がぶっ壊されました。小泉政権は、第1に競争・効率本位（成果主義）の市場経済主義・株価至上主義を促進する法整備を加速させた。01年4月に小泉政権発足後、戦後最悪の失業率の中（99年派

遣社員制度を全職集拡大）で、製造現場への派遣を解禁した。年功序列・終身雇用制度（カイシャ共同体）の崩壊です。さらに、企業が

リストラや合併・買収がやりやすい整備法、持ち株会社や株式交換、会社分割が解禁された。（その結果、低所得者増大・自殺者は倍増・ホームレスの増大）

一方、企業の研究開発費やIT投資の一定割合を税額控除できる減税や株式授与益減税等、豊裕層優遇の税制改革を重ね、逆に02〜06年にかけて個人所得課税は3、9兆円の大増税となった。小泉首相は「年出をどんどん切り詰めれば、やめてほしいという声が出てくる。増税してもいいから施設をやってくれという

状況なるまで徹底的にカットしなければならぬ」と、能たもうた。

「聖域なき年出削減」のかけ声のもと「誰かが、どこかで」支えられず、生活がぶっ壊され、生命の保証もなく、命を担保に収奪（借金回収）されているのです。

規制緩和や競争原理重視の経済界の論理が、教育政策まで着々と浸透していく。戦後、保守政権が守ってきた（包摂主義）、できるだけ多くの国民の暮らしを底上げするための「再分配政策（社会保障）」の大転換です。労災年金受給者には、現況の実感はないでしょうが、見つめるべきです。これらの政策の一環として、「障害者自立支援法」はあると、捉えることが必要で

す。

10年後の連合会というより、早急に解決しなければならぬ課題が多い。

一、会員増強について  
会員増強のお願いについては、ここ数年、各ブロック会議開催にあたり、本部より提案されてますが、「努力している支部、努力しても会員増加しない支部、努力が見られない支部」の3パターンが有り、支部によって温度差を感じられません。

※脊損ニュースの活用  
※ホームページの充実

※支部会報の発行  
※脊髄損傷者のニーズ  
キャッチシステムの構築など

九州で頑張ってる支部は、福岡県支部と沖縄県支

部だと思いました。やはり、「役員の高齢化を始め活動をしていない。」と感じられました。これから、沖縄県支部は力を入れ、各支部のお手本になれる様に努力したいと深く感じました。会員一人一人の協力と理解と団結力が必要だと思います。

(報告・平田)

写真1

### 障害者自立支援法

#### セミナー

去る十一月三日(金)・文化の日、那覇市内のホテルにて、障害と人権弁護士ネット主催で「障害者自立支援法に関するセミナー」がありました。

はじめに、視覚障害で現役の弁護士竹下義樹氏の記念講演の後、障害者、施設関係者、市役所職員等を含めた「自立支援法・何が問題か、どうすればよいか」のタイトルでパネルディスカッションもありました。各パネラーからの現状報告や問題提起等、会場をあふれるほどの参加者の熱気とともに、人権という立場から様々な問題を含む自立支援法の不備を指摘する有意義なセミナーでした。

(報告・上里)



### 県知事選挙立候補者へ 公開質問書提出

障害や福祉関係に勤める有志の集まりである「チーム沖縄」により、県知事選挙へ立候補する3名に対して、公開質問書を提出しました。県政を担う新しくリーダーとなる方に、障害者福祉に対する考えや自立支援法がもたらす問題点に対する取り組み等、六つの

項目に分けた質問に、各候補者から回答をいただきました。十一月十九日(日)に行なわれた選挙の結果、仲井真弘多氏が当選され、これからの四年間の県政の舵取りを託す中で、仲井真氏から回答いただいた内容を、チーム沖縄としては、公約のひとつとして活用していくそうです。

## 県立博物館・美術館の バリアフリーチェック

去った十一月二十日、県立博物館・美術館のバリアフリーチェックに、沖縄連からも役員1名が参加しました。チェックに参加しにくつか問題点、要望がだされましたので報告します。

### 【問題点・要望】

◎チケット売り場

- ・窓口の通話用開口は車いす使用者には高すぎる為、車いすの方でも会話できる高さに通話用の開口を設けてほしい

- ・カウンターの高さは車いすの高さにもかかわらず、カウンターの下に車いすが入るニースペースがないので改善してほしい

◎トイレ

- ・車いす使用者用トイレの絶対数が不足している。車いすが利用できるトイレを、男女それぞれ一般トイレにも設置してほしい

◎実習室

- ・せめて1箇所は、シンク下部にニースペースを設け、車いすが使用できるようにしてほしい

これら以外にも、他の障害者団体とのバリアチェック

クにより約35事項の要望ががありました。これに対し県の担当者からは、要望書を改めて確認し改善に努力することを約束してくれました。

(報告・岸本)

## ☆施設訪問・交流会

### 【⑤沖縄中央療護園

(北中城村)】

去る十一月五日(日)、施設訪問・交流会の5箇所目の施設として、北中城村にある沖縄中央療護園を訪問しました。施設の面会室で、私達役員を含めた5名と施設入所の方3名の脊損者、施設職員の方を交えて、和やかな雰囲気でした。床ずれ予防のクッションのことや運転免許証の更新の必要性などを伝えると

ともに、機関紙「しゃりん」の送付やイベントへの案内、メールを通じて連携を深める事を約束しました。休日の訪問にもかかわらず、施設内の案内まで行なっていたいただいた、施設職員の皆さんへ深く感謝申し上げます。

【⑥ソフィア(糸満市)】

十一月二十六日(日)糸満市阿波根にある身体障害者療護施設ソフィアに、脊連上里会長、他役員二名で脊損入所者三名と交流訪問して参りました。三人の方の受傷歴は十年以内で体調管理にやはり苦労していると話してました。しかし三人が各々の楽しみを持って暮らしている話を聞くと逆にこちらが勇気を与えられました。三人とも頸損なので

手の自由も奪われたようですが、介助なしでマイペー  
スで好きな酒を楽みたいと  
工夫改良したドリリンクホル  
ダー付きの電動車椅子を  
使っている方、又動くのが  
苦手なので頸損ながらも将  
棋を差すことに楽しみを見  
つけ大会出場を目標にされ  
てる方、宜野湾マラソンに  
出られて新記録を出した  
方。三階建ての施設内を職  
員の方の案内で見学するこ  
ともでき、メンテナンステ  
も行き届いていて綺麗な施設  
でした。



(沖縄中央療護園)

写真2

(ソフィア)

去る十月二十九日(日)に行われた、第26回大分国際車椅子マラソン大会に、車いすマラソンクラブ・タートルズのメンバー12名が参加しました。そこで自分  
は自己新記録の更新が出来  
(メンバーのおかげで)タ  
イムは、53分59秒でし  
た。嬉しかったです。まだ  
まだ自己記録・世界記録を  
目標に頑張って行きたいと  
思いますので、これからも  
応援宜しくお願いします。

上与那原寛和

広告